

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

《本校における調査結果の概要》

	全国平均正答率	本 校
国 語	54.3	50
数 学	48.3	41
理 科 (平均 IRT スコア)	503	483

見方(基準)	全国平均正答率より
5ポイント以上高い	大きく上回る
3ポイント以上5ポイント未満高い	やや上回る
3ポイント未満の差	ほぼ同じ
3ポイント以上5ポイント未満低い	やや下回る
5ポイント以上低い	大きく下回る

【国 語】

全国平均に比べて4.3ポイント低い「やや下回る」という結果であった。領域別に見ると、知識及び技能の領域では、「言葉の意味や漢字」については「大きく上回る」結果であったが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は「大きく下回る」結果であった。また、思考力・判断力・表現力等の領域では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の項目が全国平均を「大きく下回る」結果であった。

漢字や語句の意味といった基礎知識は定着している一方、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」といった思考力・表現力を要する活動に課題が見られた。そこで、授業では基礎知識の確認や定着に加え、意見交換や文章表現等の学び合いの場を意図的に増やし、現在、言葉を使って考えを深める学習を重視した指導を行っている。

【数 学】

全国平均に比べて7.3ポイント低い「大きく下回る」という結果であった。領域別では、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」の区分で「大きく下回る」結果となり、中でも「図形」についての正答率が約30%と、振るわなかった。また、評価の観点別では「知識・技能」と「思考・判断・表現」の区分で、「確率」については、全国平均と「ほぼ同じ」という結果であったが、それ以外は全国平均を「大きく下回る」結果であった。

そこで、反復練習や前学年からの既習事項の振り返りを繰り返し徹底して行い、さらに生徒が基礎・基本を確実に身に付け、解けた時の達成感を知識・技能の向上につなげられるよう指導している。特に「図形」の領域において、数学的な見方・考え方による判断力と、図形の証明などで相手に正しく分かりやすく伝える表現力の向上が課題である。そのため、図形に関する基本事項を再確認し、習熟度に応じた学習方法を提示して、解答の流れを理解したり、筋道立てて表現したりすることができるように指導を積み重ねていきたい。

【理 科】

中学校理科の調査は、IRT方式で実施した。これは、生徒それぞれが、全員が共通して回答する問題に加えて、自分に割り当てられた問題(問題セット)に回答し、正解した問題の難易度から学力を推定する方法である。調査の結果はIRTスコアという数値で表され、全国と湯山中のIRTスコアを比較すると、全国は503、湯山中は483で20ポイント低い「大きく下回る」という結果であった。なお、学習指導要領に示されている、「エネルギー」「粒子」「地球」「生命」の領域別正答率、「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価の観点別正答率、「選択式」「短答式」「記述式」の問題形式別の正答率については公表されていない。

今回の調査結果から、露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、「地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうか」を見る問題正答率は、全国と比較すると、5.5ポイント高い「大きく上回る」という結果であった。しかし、水について科学的に探究する場面において、「日常生活や社会と関連付けながら、これまで学習した理科の知識及び技能を活用することができるようかどうか」を見る問題正答率を全国と比較すると、25.4ポイント低い「大きく下回る」という結果であった。そのため、單元ごとの習熟度の差をなくしていくために、現在、單元別の振り返りを行っている。

【生徒質問紙】

肯定的回答の割合が、全国平均と比較してある程度大きな差がある（約 10%以上の差がある）項目は次のとおりであった。

< 肯定的回答の割合が全国平均を 10%程度以上上回る結果が示された項目 >

質問番号	質問に対する回答の選択肢	本校の割合 (全国平均)
(7)	将来の夢や目標を持っていますか	約 81% (約 68%)
(44)	国語の勉強は得意ですか	約 69% (約 58%)
(45)	国語の勉強は好きですか	約 69% (約 58%)
(49)	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいますか	約 81% (約 70%)

< 肯定的回答の割合が全国平均を 10%程度以上下回る結果が示された項目 >

質問番号	質問に対する回答の選択肢	本校の割合 (全国平均)
(33)	1、2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	約 56% (約 71%)
(36)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	約 58% (約 73%)
(54)	数学の授業の内容はよく分かりますか	約 52% (約 70%)
(56)	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか	約 40% (約 58%)
(58)	数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	約 46% (約 59%)
(59)	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか	約 56% (約 67%)
(60)	理科の勉強は得意ですか	約 25% (約 51%)
(67)	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見出したりしていますか	約 42% (約 56%)
(69)	理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか	約 38% (約 70%)
(70)	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか	約 38% (68%)

本校の I C T 機器の活用が進んでいることは過去の調査でも示されており、今回もそれは以前と同じ結果であった。しかし、各教科の中で、自主的に考えたり取り組んだりすることや、学習したことを次の学習に生かしたりつなげたりすることに課題が見られた。特に、国語科の授業では積極的に学習に取り組んでいるが、数学科や理科の学習には、苦手意識も強く、学習内容を普段の生活に活用しよう、新たに調べてみようという意欲や学びの深まりにつなげられていないと考えられる。また質問調査により、将来の夢や目標を持っている生徒が多いということが確認できた。夢の実現、目標の達成に向けて、今後も「一人一人が分かる授業」を心掛け、学習の振り返りを大切にして、基礎・基本の定着に力を入れた指導を継続していきたい。そして、学習だけでなく、心の通う教育相談などを通して、全教職員で生徒の気持ちに寄り添いながら、生徒が生き生きと活躍する学校を目指していきたい。